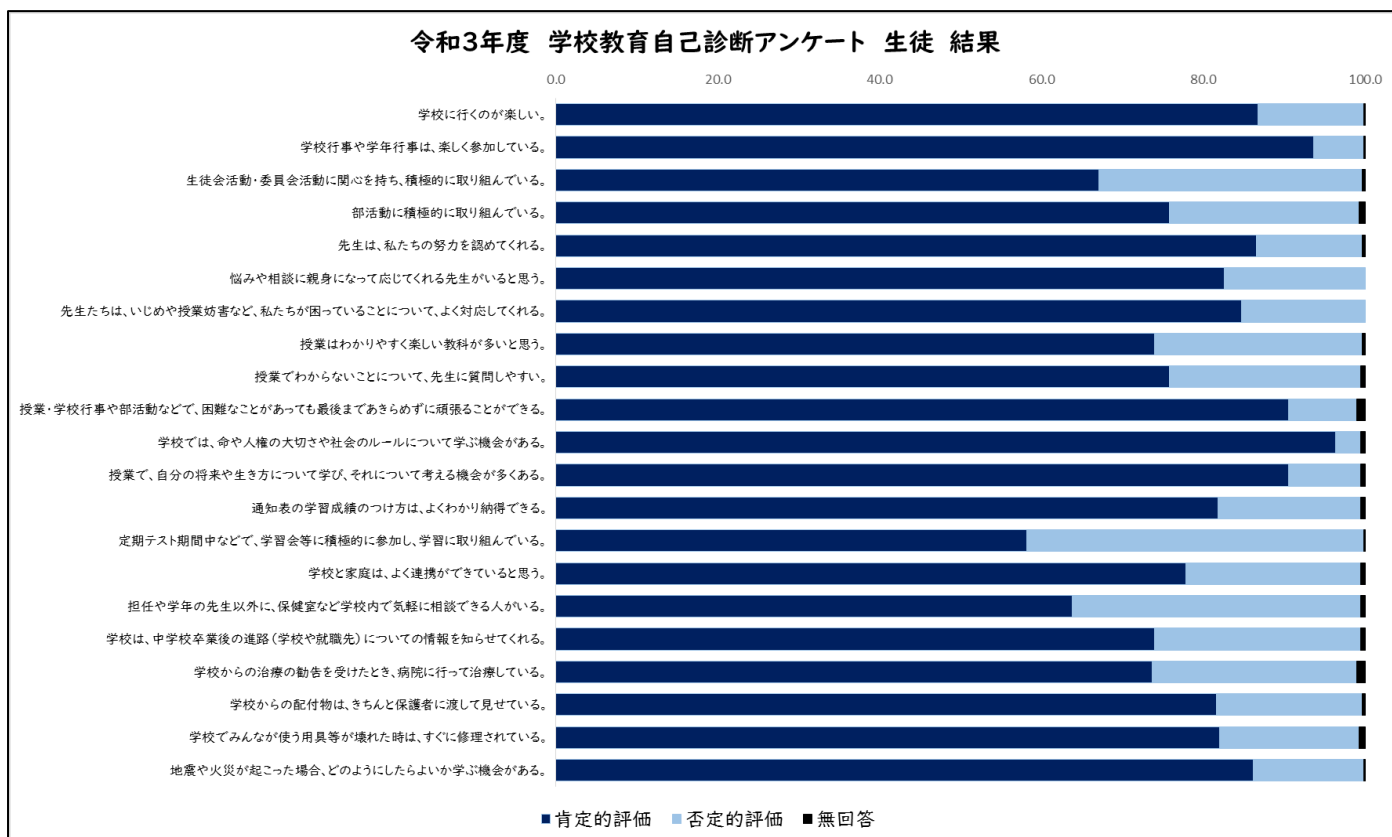


令和 3 年度 学校教育自己診断アンケート 結果考察

令和 4 年 2 月
茨木市立平田中学校

1. 生徒アンケート 結果



2. 生徒アンケートからの考察(昨年度との比較から)

成 果	課 題
★「学校へ行くことが楽しい」の項目については概ね良好で、行事や生徒会活動に対しても積極的に取り組むことができた。 ★命や人権の大切さや社会のルール、自分の将来や生き方について、学校生活を通じて学ぶことができている。 ★いじめや授業妨害に対して、先生はよく対応してくれていると思っていることについて、教職員の迅速な対応ができたことが成果である。	★授業について、学習に意欲的に取り組んでいるが、生徒にわかりやすく学んだことを活用することで、自分に力がついたと実感できるような授業づくりをする必要がある。 ★もっと自分の努力を認めてほしい、悩みや相談を聞いてほしいと感じている生徒が一定数いるので、生徒の気持ちにさらに寄り添い、話をしっかり聴くことが必要である。 ★3割近くの生徒が学校からの配付物をきちんと保護者の方に渡せていないということなので、提出物等の大切さをさらに伝えていく必要がある。 また、健康診断などで治療が必要であっても、治療が終わっていない生徒が、4人に一人の割合でいるので、病院の受診や治療について保護者へもさらに伝えていく必要がある。

3. 保護者アンケート 結果



4. 保護者アンケートからの考察(昨年度との比較から)

成 果	課題
★子どもは学校に行くのを楽しみにしているという項目は良好であった。 ★命や人権を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てようとしている点については、評価が高い。また、いじめや暴力・授業妨害がないようにしようとする生徒指導の方針について、生徒指導通信などを発出することでご家庭の協力を得ながら学校教育を進めることができた。 ★学校からの案内やホームページや災害の情報などについては、個人のプライバシーを守って配付・配信を行うことができた。	★今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大状況により授業参観の機会が現状し、子どもの姿を見てもらう機会が減少したこのような状況の中で子どもたちの様子や学校の取り組み等を保護者に正しく伝えていくということに課題がある。 ★授業について、子どもがわかりやすく魅力ある授業づくりが喫緊の課題である。生徒のアンケート結果とも同様に授業で「わからないことをわからないと言える」教室づくりや思考の深まる授業づくりなど生徒が安心して授業を受けられるようにしていく必要がある。 ★生徒指導の方針にはご理解をいただいているが、保護者との連携については、さらに深めていく必要がある。

5. 生徒アンケート・保護者アンケート通して見えたこと（分析）

○生徒アンケートと保護者アンケートについて共通する課題としては、授業づくりであった。

・授業づくりについては、どの教科でもわかりやすく魅力ある授業づくりを実施する必要性がある。そのためには、生徒が学んだことを実感でき、活用できるような課題を準備したり、自分に力が付いたと実感できるような授業づくりを教職員全員で考えていく必要がある。

・一方で授業中に質問しにくいという環境については、「わからないこと」が「わからない」と言える教室環境づくりや生徒の人間関係を良好に構築していくことが必要と思われる。

○生徒アンケートと保護者アンケートでの相違点として、生徒の将来や生き方について学ぶ機会とそれについての状況提供のことであった。

・生徒は学ぶ機会に恵まれているが、保護者にその情報が伝わっていないという点で課題であると考ええる。保護者の方へ生徒が学習していることが伝わるような方法を教職員で考えていく必要がある。

6. 次年度からの取り組みとしての方策

●学習について

- ・わかりやすく魅力ある授業づくり、「わからないこと」を「わからない」と言える教室環境づくり
- ・学習評価に関する適切な説明をする機会を設定する。

●相談体制の構築

- ・生徒との信頼関係づくりをさらに深め、二者懇談等の相談体制の構築

●生徒の学びの発信について

- ・生徒が総合の授業で学んだことなどがわかるようキャリアパスポートの活用
- ・懇談の機会などでの成果物の掲示

●授業参観など保護者の学校行事への参加について

- ・新型コロナウイルスの状況を見ながら、学校行事が開催できるよう柔軟な対応